一般情報識別子の標準化と 応用Webサービスのプロトタイプ

Hideki Okamoto

Disinfo Kill Chain

- 1. ターゲット分析 (Target Analysis)
- 2. インフラ準備 (Infrastructure Preparation)
- 3. コンテンツ作成 (Content Creation)
- 4. 信憑性付与 (Credibility Enhancement)
- 5. 初期拡散 (Initial Dissemination)
- 6. エンゲージメントの誘発 (Amplification)
- 7. 行動への誘導 (Behavioral Influence)

OSINTツール・データの真正性保証・ ボット対策など、充実しつつある



前段の成果を後段に活か すのも難しい

ファクトチェック・市民への教育・ SNS事業者に対する働きかけ

→ 後段ほど対策が辛い

- ファクトチェック情報自体が散在していたり、そもそも市民が参照しや すい状態になっていない
- ファクトチェック団体・メディア自体の信頼が落ちている。
- なんだかんだ偽情報対策の具体的な施策がSNS事業者に委ねられている (ように見える)

提案

- あらゆる言説に固有の識別子を与えて、全ての偽情報対抗者がDisinfo Kill Chain の上流から下流まで連携できるようにする
- この識別子によって指される言説が偽情報か真正の情報かは問わない。各アクターの意見の相違とこの識別子とは切り離す(見解の相違はあっても「私」と「あなた」と「彼ら」は同じ言説について論じていることを保証)
- 識別子は公開されたアルゴリズムによって自動的に生成し、特定の組織の裁量に 依存しないことを保証

一般情報識別子(General Information ID)



CVE (Common Vulnerabilities and Exposures): サイバーセキュリティ上の脆弱性に一意の識別番号を割り当てるシステムです。脆弱性やエクスポージャーが発見された際に、CVE IDが割り当てられ、関係者間での情報共有が容易になり、特定の脆弱性に対する対応や修正が効率化される

CVE IDの発行権限と裁量がCVE Numbering Authorityという組織にあるが、 言説に対する採番はサイバーセキュリティと異なり、この裁量権が意見の 相違のあるアクター間の合意をより困難にする

→ アルゴリズムにまかせる

2013年ごろから言葉の意味を数値化(ベクトル化)してコンピュータで扱えるようにする研究が急速に発展

新型コロナのワクチンに は5Gマイクロチップが 入っている

新コロの枠を打つと5G の電波が身体から出る



似た意味の文は似たようなベクトルになる

mgvwWRaEktMlWosq9kHEVqJm6vTnE
WYvXX6Yb7vNAxnq09BNzOGjGV9WMg
0HXSLh3zOtiCr9BAIDHaQibEE8tU0
C2421AycZKoKn1kxecX8EWJegc4Uw
Lr5YVwHIkvs3iGtdtdIsgN6WOGR0P
wny06PjFLCFOuZ6n5quFo3hoORH6m
I619IZVC3hfX1sGlOoKaZVy3CEiLR
UsnoLf4bNvcm9x0ZJbXi61FlpZmEF
QUpQ0062Uqi9OJP7qZVpnJAdbX

似たベクトルを統合して 適当な文字列に変換する → これを識別子にする

一般情報識別子の役割はここまで

ここからは一般情報識別子を応用したWebアプリ 偽情報対策をとる組織が作った想定でプロトタイプの紹介

Backup

General Information ID

GIID-

eXdvZDR7ubPQsAE0FRTW88w5vmiRtRlhWhdcz5npTS0hwGfgD44L6VcjFhdp6mZQLusl9mex22viG Aa2sA9W81so9TranVGiwY0GkytU3uuRllfwvKF1uuAhPPwRgVoTaqql054CBycbrNRk28SGszkquaEY vtZiVmNFNLtPMpx2DmYNL0AQxLuKeZuMGYmx0c9wgzcRTWjRqfV9W2loOhDxKgleR4TQ6mnBbe mJS0W3NDdzuAnJr8TsbXN32gZrTc

Download the fingerprint vector

Date Identified or Published:

2024-10-10

Sample Narratives:

- Ukraine is developing bioweapons with U.S. Support
- Putin has been vocal about the US-funded Biolabs in Ukraine experimenting with bat coronaviruses and creating bioweapons.
- US government had a network of bioweapons labs in Ukraine.
- During the 2022 Ukrainian conflict, Russia exposed the DOD and NATO partners of the US government, who funded and ran thirty bio labs in Ukraine under the pretext of COVID-19 preventive programs.

programs. **Language Distribution:** Language Percentage 70% English Chinese 20% 10% Arabic Tags: Health Fluorine Medical **Evaluation by organizations:** Date of Organization **Evaluation Comments** Link **Evaluation** The 2024-10-Unverified Washington False <u>Link</u> 27 claims Post Consistent 2024-10-France 24 True with known **Link** 28 facts 2024-10-Analysis **CBC News** Misleading <u>Link</u> 29 incomplete